

【はじめに】受付の段階で患者から受け取る情報の緊急性を意識することで、よりスムーズで的確な対応になると考え取り組みを開始した。【方法】1. 受付職員に受付業務における患者の症状や訴えに対する疑問や、対応に困ったことについてアンケートを実施した。アンケートの結果<血圧や脈拍の異常値><循環器疾患と症状><看護師にすぐに報告すべき症状>について知りたいとの意見が多かった。2. この結果に基づき、循環器疾患における主要な症状と緊急性を要する疾患について資料を作成しレクチャーを行った。3~4人ずつのグループに分け、INARS インストラクターを持つ看護師が講義形式で行い質問に応じた。内容はバイタルサイン、胸痛などの主要症状、急性冠症候群や大動脈解離などで、「緊急性のある症状や状態」「注意すべき症状」「いち早く看護師へ報告すべき症状や状態」を中心に行った。3. レクチャー後にアンケートを実施し、理解の程度や疑問点を尋ね反応をみた。【結果】全員が内容はわかりやすく、今後の患者対応に役立つものであったと回答。「どのような症状の患者を早く看護師に伝えるべきかよくわかった」「どこまで患者に症状を問えばよいのか迷っていたことがはっきりした」などであった。【考察】緊急性のある症状についての理解が深まったとの回答が得られた。受付職員の緊急性の意識は高まっており、レクチャーは有効であったことがいえる。医師や看護師だけでなく、医事課職員をはじめ職員全体が受付の段階から緊急性の意識を持つことで、的確な対応につながると思う。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分~ 時 分

受付番号

演題番号